

プログラムデザイン

作成のPoint

- 全体のねらい達成に向け、長期間のキャンプを4つのステージに分けて設定する
- 活動の羅列にならないように、ステージのねらいに合わせて組む
- ひと目で分かるように1枚のシートにまとめる

ねらい

出会いのステージ Encounter

これからの活動に対し、新しく出会った仲間と共に取り組んでいこうとする意欲をもつ

事前説明会 7/19 ① 8/2

■事前説明会

- キャンプの概要を知り、見通しをもつ
- サイクリング練習や熱中症対策講義をとおしてキャンプに対する意欲を高める

■開講式

- 所長やスタッフの話を聞き、あらためて頑張りたい気持ちに気付く

■アイスブレイク

- ゲーム等をとおして、互いの距離が近づく

■チームフラッグ

- 今の自分のめあてを書こう

■登山指導

- 歩き方、パッキングについて知る



活動プログラム

チームづくりステージ Team Building

同じ班の仲間と励ましあい、目的を共有しながら登山することにより、仲間意識を高める

② 8/3 ③ 8/4 ④ 8/5 ⑤ 8/6

■登山

- 山小屋2泊(わさび平小屋、双六小屋)からの縦沢岳山頂(2,755m)アタックを仲間と一緒にやり遂げることで、仲間意識を高める

■ジップライン

- 仲間と譲り合い、協力し合いながら楽しく活動する

■野外料理(カレーライス)

- 自分たちで相談して役割を分担し、おいしいカレーを作る
また、責任をもって最後までしっかり片付ける

■チームフラッグ

- チームとして大切にしたいことを、話し合っておこう



かかわる方

- 初めて出会う仲間とかかわり、進んで話しかける

- リーダーシップ、フォロワーシップを発揮する(固定的でない役割分担)

- 積極的に声かけをするなどして励まし合う

感じる力

- 他の仲間も同じ思いをもって集まっていることを感じる
- 不安感や期待感など

- 仲間の力を感じ、「集団」から「チーム」へと意識が高まっていく

- 「集団：ただの集まり」「チーム：目的を共有した集まり」
- 登山の厳しさや自然の雄大さ、美しさに気付く

見つめる力

- 自分が目的をもって参加していることを意識する
- 指示を聞き、登山に必要な準備をする

- 登山やカレー作りなどの活動に対して、自分の目的意識をもって取り組む

評価

「子どもIKR評定用紙(簡易版)」及び「小学生版社会的スキル尺度」を用いた調査：事前(説明会時)・中間(5日目)・事業終了時・事業
 チームフラッグ：ステージの切り替わりでテーマを与えて記入(ステージ頁参照) ふりかえりカードを用いた生き抜く力の基
 ふりかえり作文：事業最終日にこれまでをふりかえって記入 リーダーによる参与観察：キャンプ中の毎日

スタッフのかかわり方

指導的・指示的かかわり

- 進んでグループに入り、子供同士の積極的なかかわりをうながす

- スタッフ同士、子供同士、スタッフと子供で、たくさん名前(キャンプネーム)を呼び合う雰囲気を作る

- チームフラッグやふりかえりカードへの記入の仕方を指導する

- 集団生活のルールや公共マナーについて指導し、意識させる

■登山

- 安全面に特に留意する
- スタッフが子供を励まし、子供同士が励まし合う姿を見付け、認める

■ジップライン・野外料理

- 登山によって身に付けたチームワークを生かし、役割分担をする等の協力性を発揮しているかに着目する
- 積極的に他とかかわる姿を評価する等、個々のかかわり方を把握する
- スタッフ個々の捉えをスタッフ全体で共有し、補完することにより、今後の指導に生きる材料とする

活用のPoint

- 全スタッフが持つ「記録用ノート(野帳)」に貼り付け、常備する
- 参与観察や活動支援の際、ねらいに沿った対応を心がける
- スタッフミーティングの際、特にステージの切り替わりで、ねらいやスタッフのかかわり方等を確認する

チャレンジステージ Challenge

困難なサイクリングに対し、仲間と声をかけ合いながら、やり抜くことにより、仲間の大切さを実感する

⑥ 8/7 ⑦ 8/8 ⑧ 8/9 ⑨ 8/10

■サイクリング①

- 砺波青少年自然の家から能登少年自然の家(約152.1km)間を3日間で移動し、困難な活動に取り組む

■大型カヌー

- 目的地に向け、心と声を合わせて漕ぐ

■レクリエーション(ボランティア企画)

- チーム一丸となって課題に挑戦する

■チームフラッグ

- ラストチャレンジに向け、頑張りたいことを書こう

■家族からの手紙

- 家族から届いた、励まし等の手紙を読み、感じたこと、考えたことをお礼の手紙に表す



旅立ちのステージ Starting

全日程をやり遂げた達成感を感じるとともに、自分の成長を見つめ、これからの自分の生き方について考える

⑩ 8/11 ⑪ 8/12

■サイクリング②

- 能登少年自然の家から禄剛崎灯台(約34.5km)を、これまでの活動を思い起こしながら走る

■自転車片付け

■ふりかえり

- 11日間をふりかえって自分の感想や考えを作文にまとめる

■チームフラッグ

- 全力キャンプをやり遂げた今! 未来に向け旅立つ私たちにふさわしい言葉を書こう

■閉講式

- 保護者や仲間、スタッフの前で、未来に向けてどんな自分になりたいか宣言する



○ 困難に立ち向かって頑張る仲間の姿を認め、その良さを伝え合う

○ 弱さを見せている仲間に、励ましの声かけをする

○ 仲間の言動から、目的達成に向けたそれぞれの思いを感じる

○ くじけそうな時に、仲間がしてくれたことに感謝する

○ 困難に立ち向かい、やり抜いた自分の頑張りに気付く

○ 自分の弱さと向き合う

○ あきらめないでゴールを目指す

○ 時間や次の予定を考えて活動の準備をしたり、実際に行動したりする

○ 最後のサイクリングで、全力を出すだけでなく、仲間と声をかけ合ってゴールする

○ 仲間や家族を意識しながら、自分の感想を伝える

○ 仲間の感想から、自分の思いと比べながら聞く

○ 全日程をとおして、成長した自分を自覚する

○ 今までをふりかえり、頑張ってきた自分を認める

○ キャンプ前の自分と今の自分を比較し、成長したところ、より良く成長したいところを意識し、今後の生活に活かそうとする

終了1か月後 計4回実施

礎(3つの力9項目)の自己評価: 事前(説明会時)・事業開始から10日目 計11回実施

支援的・支持的かかわり

■サイクリング①

- 安全面に特に留意する
- 体力的に負荷が大きく、リタイアも予想される。子供の様子をよく観察し、体調の変化の把握に努める
- 子供の意欲を高め、子供同士の励ましを引き出す言葉がけを心がける

■大型カヌー

- 声を合わせて漕ぐ姿に気付かせ、チーム力の向上を意識させる

■ふりかえり、レクリエーション

- 仲間、スタッフ、家族に思いを巡らせる場を意図的に設定し、頑張ってきた自分、周りの人と支え合っている自分に気付くよう促す

■サイクリング②

- 安全面に特に留意する
- 子供の気持ちがゴールに向けて高まっていく様子をとらえる

■ふりかえり

- 今日のことだけでなく、これまでのことや今後のことについて考えさせる

■自転車片付け

- 愛着をもって整備するよう支援する

■閉講式

- 全日程を想起させ、自分の思いを表現させる